



社員の3分の1がベトナム人。ベトナム人社員の活躍がベトナム工場設立に。

株式会社中農製作所は、切削加工のエキスパート。船舶部品や自動車部品の製造で培った技術を活かして、半導体製造装置やロボットなどの最先端分野にも進出しています。

2017年に設立したベトナム工場は、当社のベトナム人社員の熱い思いから始まったそうです。

西島大輔社長にお話を伺いました。（2020年9月）

－ 社員の3分の1がベトナム人だそうですね。どのような経緯でそうなったのでしょうか？



西島社長

現在、**70名いる社員のうち、25名がベトナム人**です。**高度人材が18名と、技能実習生が7名**います。

15年ほど前からベトナム人の技能実習生を受け入れて、ベトナム人のハングリーさや手先の器用さ、真面目さは充分理解していました。ただ、実習生は3年で帰国してしまう。経営の安定化のため、売上の大半を占めていた量産品の比率を下げ、多品種小ロット製品に取り組みたかったので、**技術を覚えて長く働いてもらえる人材**を探していました。そのとき**高度外国人材**を知り、2009年にベトナム人の高度人材を4名採用しました。彼らの頑張りによって、後輩のベトナム人もどんどん入って来るようになったんです。

－ ベトナムに進出するためにベトナム人を採用されたのではないのですか？

はい、**進出のための採用ではありませんでした**。当社でベトナム人が育っていく過程で、彼らの「ベトナムにも工場をつかってほしい」という思い、ビジョンや目標が出てきて、ベトナムに進出しようとなったんです。



展示会に出展する社員の皆さん

“MTA Vietnam”というベトナムの工作機械の展示会でジェットロのジャパン・パビリオンのブースに20社ほどで出展したとき、当社のブースにすぐく人気が集まったんです。他社のブースでは通訳を雇われていたのですが、当社では**展示部品を実際に製造しているベトナム人社員が「これは自分が作った部品です」と誇らしげに説明して、深い話ができていた**んですね。

そのとき、現地のローカル企業に当社の技術を教えて、そのローカル企業が製造した部品を当社が購入するというビジネスモデルを思いつきました。駐在事務所で3年間、この方法でやってみて、ローカル企業からの購入が1億円を越えた時点で法人化しました。おかげで、現地法人は設立1年目から1億円の売上があり、黒字経営です。初期投資を抑えて海外進出することができました。

– ベトナム人（高度人材）の採用は、どのように行われていますか？

最初は組合に人材を紹介してもらいましたが、今は**ベトナム人社員の親族や兄弟、日本にいる友人を紹介**してもらっています。また**現地の大学の卒業生を現地法人の社長が面接して、日本本社に採用**することもあります。

これまでは製造現場で働いてもらう人材として現地の専門学校で工学を学んだ者を採用してきましたが、今後は現地法人とのやりとり等、バックオフィスを担ってもらう人材として日本で学んだ**留学生の採用も考えていきたい**と思っています。

– 採用や育成にあたって、気をつけていることは？

最初は日本語ができないと大変だと思って日本語能力（N3～N4）も見ていましたが、今はもう上司にベトナム人もいますし、**採用にあたって日本語能力は関係ありません。ただ、戦力になってもらうにはやはり日本語も必要**なので、入社後は週1回、日本語の先生に来てもらって社内で日本語教室を開いています。



ベトナム法人の従業員の皆さん（前列中央が社長）

キャリアパスを示すという点では、当社にはうってつけの**ロールモデル**がいます。最初に**高度人材として採用したベトナム社員4名が、現在、ベトナム法人の社長と副社長、日本本社の製造現場の課長・係長として活躍**してくれているのです。

ずっと日本で働きたいと、家や車を購入して子供を日本の学校に通わせる社員もいますし、いずれはベトナムに帰りたいという社員もいます。当社で働いて将来どうなりたいか、いろいろな選択肢があると思います。ベトナム人同士で、先輩が後輩に日本の文化を教えたり、高度人材が技能実習生の面倒をみたり、よくやってくれていますよ。

– 日本人社員とベトナム人社員の関係について、会社としてどのような配慮をしていますか？

外国人材を活用するに当たっては、やはり**経営者の考え方、会社の雰囲気**が大事だと思います。当社は、日本人とベトナム人で、区別は一切しません。給料体系も全く同じです。単にワーカーとして働くことを求めると、本人も面白くないでしょう。やはり**一人の従業員として、会社の中でどう活躍できるか、考えてあげる必要があります**。中小企業だからこそ、それが可能なのではないのでしょうか。

いろいろな形で日本人社員とベトナム人社員のコミュニケーションをとろうと工夫しています。職場の近くに花園ラグビー場があるので、ワールドカップ前に健康経営の一環としてラグビー場の近くの公園のごみ拾いやウォーキング大会を行いました。今年からは、従業員主体で1つのテーマを決め、日本人社員もベトナム人社員も一緒にみんなで3ヶ月間、集中して取り組んで、年間チャンピオンを決めようという試みも始めています。



半導体製造装置・産業用ロボット部品等

【株式会社中農製作所】
住所：大阪府東大阪市足代北1-18-26
代表者：取締役社長 西島 大輔
創業：1949年、設立：1957年
業種：産業機械部品の製造
資本金：1,450万円
従業員数：70名
（うち高度外国人材18名、
技能実習生7名）
ベトナム法人
： NAKANO PRECISION CO., LTD
HP: <https://www.nakanos-s.co.jp/>

担当者からの一言

アイデアの光るベトナム進出ですね。中農製作所さんは、当局主催のベトナムでの「ものづくり人材交流会」にも参加して現地人材の発掘が行われています。